

労使ワークショップ開催 ～建設的な労使関係の構築に向けて



金属労協(JCM)事務局長
梅田利也

今年度も関係各位のご支援ご協力のもと、インドネシアならびにタイにおける労使ワークショップを開催し、無事終了することができました。

この労使ワークショップは、日系企業の現地労使が一堂に会し、建設的な労使関係の構築に向け、率直に意見交換を行う場として、年に1回の頻度で開催しており、インドネシアにおいては12回目、タイにおいては9回目を迎えることになりました。

グローバルに展開する金属産業では、海外事業の動向が国内にも影響を与えるため、労働組合の取り組みもグローバルな視点で行う必要が出てきます。

ひとたび海外労使紛争が発生すると、労使双方に多大な損失が生じることから、金属労協主催による労使

ワークショップを開催しています。

今回の労使ワークショップでは、現地の労使関係に直接触れていただくことを目的として、各産別の国

際担当者も参加しました。実際に現地への帯同と労使ワークショップへの参画はもちろん、現地の日本国大使館や労働省等を訪問し、現地国のことを学ぶ機会も設けました。何よりもインドネシアならびにタイの労働組合役員の方々とコミュニケーションを取ることができたことは、今後のお互いの組織運営にとってプラスになるものと信じています。

海外における建設的な労使関係の構築は一朝一夕にできるものではありませんが、だからこそ継続的に努力を続けていくことが重要だと考えています。引き続き関係各位のご協力を得ながら、取り組んでまいりたいと考えていますのでよろしくお願います。

今回、初めて現地を訪れる機会を得ましたが、両国の違いに驚くとともに、自身の見識不足を実感しました。

一番の違いは人口ピラミッドグラフを見れば明らかのように、「インドネシア」→「人口増加」→「就業場所が不足」、

「タイ」→「少子化・高齢化」→「労働力が不足」、

という点にあります。

いまになって思えば、それぞれの国に降り立った時に感じた「勢い(熱量?)の違い」のようなものはまさに人口構成にあったのかもかもしれません。

さて、わが国はと言えば...

日本に降り立った海外の人々はどう感じるのでしょうか?

わが国GDPの2割を占める製造業で働く私たちに課せられた役割は大きく、ものづくり産業の持続的発展に向け、一つひとつ課題解決を図っていかねばなりません。

国際労働運動はもちろんですが、日本国内における取り組みもしっかりしなくてはいけないと再認識することができた労使ワークショップとなりました。



第9回タイ労使ワークショップには現地の労使約150名が参加した(2024年6月19日)

年代別・男女別の人口ピラミッドグラフ(2019)

